

釧路市がめざす学校のすがた基本計画（素案）に対するご意見（パブリックコメント）と回答

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
1	<p>今後の教育改革は、釧路市の人口増に貢献できる教育体制に大きく転換させなければならないと考える。</p> <p>事務職と教育職の分離化によって教員の事務職の負担を減らすこと。</p> <p>公設公営によるインターナショナルバカロレア対応の外国語教育に重点を置いた外国語重点型義務教育学校に転換した特色ある義務教育学校（仮称）釧路市立外国語義務教育学校を新たに1校設けること。</p> <p>校外の義務教育学校については、学区制を採用せずに自然体験学習を取り入れ、農業、工業、調理師、環境レンジャーに関心を向ける人材育成と特色ある教育方式を導入し、都市部からの児童転入を目的とした教育方針を採用すること。</p> <p>魅力ある教育体制の確立によって他地域から移住しても受けたい学校教育環境を整備した方が良い。</p>	1	<p>【参考】</p> <p>教員の働き方改革については、この計画の策定に関わらず現在も取り組んでいるところであり、今後におきましても取り組みを進めてまいります。</p> <p>魅力ある学校や特色ある学校を作ることは必要なことと考えております。</p> <p>学校選択制については検討課題としており、今後検討を進めてまいります。頂いたご意見は、計画を進めるうえでの意見として伺います。</p>
2	<p>義務教育学校のメリットだけではなく、デメリットも押さえて議論すべきである。1学年から9学年では体格差があるが、運動会などはどのように実施するのか。</p> <p>全校学テの結果では小学校が担任制で全国平均を上回っているのに、わざわざ小中乗り入れ授業により学力を低下しようとするのか。</p> <p>3校による義務教育学校では、体育館は狭くなるのではないか。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>釧路市が抱える教育課題の解消や緩和に向けた方策、子どもたちにとって望ましい教育環境について、有識者会議における協議を経て、義務教育学校の設置を目指す方針を持ったところです。</p> <p>運動会の運営内容については、開校準備協議会の中で基本的な事柄について話し合うこととなりますが、学年による体格差が運営の支障となる競技は通常採用されないものと考えています。現行の小学校においても、1学年と6学年で体格差はありますが、問題なく運営されていますので、同様の対応となります。今後とも、学校規模や地域事情などを考慮し、各学校が工夫して運営していくこととなります。</p> <p>相互乗り入れ授業については、学力の向上に向けて、算数・数学や英語など高い専門性が求められる教科に対し取り入れてまいりたいと考えております。</p> <p>体育館の使用については、現在学級数の多い学校や過去に学級数の多かった時代の運営を踏まえると、体育の授業の実施には問題ないものと考えております。休み時間の利用についても、使用場所の区分けなどを図ってまいりたいと考えております。今後開校に向けた協議の上で、必要と判断する場合には体育館の増設についても検討してまいります。</p>
3	<p>義務教育学校設置の理由を、中1ギャップ、学力・学習意欲の伸び悩み、児童生徒減少のデメリット解消を上げているが、その根本的な原因を解消するための考え方が示されていない。文科省の進める9年間の小中一貫教育に移り、学力向上を基準として義務教育学校設置を考えているとしか思えない。</p> <p>今でも教職員は超多忙であり、定数不足のなかで、ますます多忙になることは明らかである。特別支援教育、通級指導について全く触れられていない。小さな町村での併設とは全く異なり、都市部での大規模な義務教育学校設置は全国にも例がない。地域・保護者・教職員の意見を聞いて、意見に基づく素案の作成をすべきである。直ちに白紙に戻し、意見を受け入れ慎重に考えるべきである。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>釧路市が抱える教育課題の解消や緩和に向けた方策、子どもたちにとって望ましい教育環境について、有識者会議における協議を経て、義務教育学校の設置を目指す方針を持ったところです。</p> <p>施設一体型の義務教育学校となることで、教員が多忙となることは望むところではなく、逆に授業を担当する教員数が増えることにより業務の効率化が可能となると考えております。教員の働き方改革については、この計画の策定に関わらず現在も取り組んでいるところであり、今後におきましても取り組みを進めてまいります。</p> <p>特別支援教育、通級指導については、義務教育学校の設置にあたり大きな影響を受けないものと考えております。特別支援学級の児童生徒を含めた全ての児童生徒にとって9年間を通して見守る体制が有効に作用するものと考えております。</p> <p>義務教育学校については、他都市では1,000人規模のものや、帯広市でも450人規模のものが設置され、それぞれ特色を生かした学校運営が行われております。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
4	<p>釧路市としての方針が「全市小中学校の義務教育学校化」ということには納得できない。学校ごとにその規模や歴史、地域の実態は違うため、義務教育学校のメリットが全てにあてはまるわけではない。先行事例に見るいくつかの課題について、市教委は未だその資料の精査結果も、市としての対策も出していない。そのような状況で、市民に理解し、納得し、賛成しろというのは時期尚早ではないか。年内に決定という短いスパンで決めてしまうのではなく、あと1年程度の検討期間を取ることを強く願う。</p>	1	<p>【その他】 本計画の検討については、釧路市教育委員会において5年前より行っており、また外部委員による検討委員会においても1年以上の協議を続けてきております。学校ごとの状況を鑑みて、今後10年の計画期間内において、6校を義務教育学校へ移行することとしております。 本計画の内容については、義務教育学校の対象となる学校をはじめとして、様々な機会を活用して説明を行うなど、積極的な情報発信に努めてまいります。</p>
5	<p>計画案をそのまま進めることには反対である。規模の大きな義務教育学校は子供の成長・発達に適した環境とは考えられず不登校が増えると思う。人間関係に苦手意識を持っている子供が多い現状を考えるとまずは少人数で、教師が手間暇かけて寄り添いながらそれを育てていかなければならず、こういった子供の心身の発達について、正しくふまえたうえで、計画を再検討してほしい。</p>	1	<p>【その他】 不登校の発生率については、現状では、学校規模により大きな違いはありません。不登校対策については、義務教育学校への移行に関わらず、子供たちの状況を踏まえた寄り添いなど、必要な取組を進めてまいります。</p>
6	<p>「小中一貫・義務教育学校の設置」には、反対である。 現状と課題の4点について、小中一貫・義務教育学校にしたら課題が解決するという「教育学知見」や「科学的データ」を示していない。全国的な実践校の根拠などを明らかにすべき。特に不登校の原因が「中1ギャップ」だとすることはおかしい。最大の背景は競争的な教育が進められているからである。 この計画については、教育に深い知見を持っている方々に再検討していただきたい。</p>	1	<p>【その他】 本計画については、国や都道府県などが発信している全国的な先行事例等を踏まえ、学識経験者等による協議を経て、策定したものであります。 不登校については、様々な要因があり、原因の全てを中1ギャップとは捉えておりません。 釧路市が抱える教育課題の解消や緩和に向けた方策、子どもたちにとって望ましい教育環境について、有識者会議における協議を経て、義務教育学校の設置を目指す方針を持ったところです。</p>
7	<p>素案には反対である。義務教育学校の制度そのものが市民にほとんど知られておらず、市民合意はない。仮に義務教育学校にするとしても、それはそれぞれの学校ごとに決めるべきで、全市一律は間違いである。小規模なら義務教育学校になっても矛盾は少ないかもしれないが、大規模校では大きな問題がつかば市で報告されている。</p>	1	<p>【その他】 本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信に努めてまいります。 義務教育学校については、学校ごとの状況を鑑みて、今後10年の計画期間内において、6校を義務教育学校へ移行することとしております。 また、他都市では1,000人規模のものや、帯広市でも450人規模のものが設置され、それぞれ特色を生かした学校運営が行われております。 開設準備にあたっては、学校・保護者・地域など学校運営に関係する主体が参画した開設準備協議会においてご意見を伺いながら、しっかりと準備を進めてまいります。</p>
8	<p>計画素案に反対です。</p>	1	<p>【その他】 ご意見として伺います。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
9	<p>義務教育学校化については、地域・校区ごとの分析をもっと分析し、メリットやデメリットについて具体的に明らかにした上で考えて欲しい。児童・保護者・地域住民そして教職員の意見をもっと聞き、ていねいに合意作りをするべき。少なくとも、400～600人規模の義務教育学校は課題が多く大反対である。少人数学校・学級は教育的な効果も確認されており、デメリットよりもはるかにメリットが大きい。12月に方向を決定するのは早すぎる。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信に努めてまいります。</p> <p>義務教育学校については、学校ごとの状況を鑑みて、今後10年の計画期間内において、6校を義務教育学校へ移行することとしております。また、他都市では1,000人規模のものや、帯広市でも450人規模のものが設置され、それぞれ特色を生かした学校運営が行われております。</p>
10	<p>計画素案に反対。21年6月にあり方検討委員会を立ち上げ、説明会は今年の夏で、あまりにも早すぎる。もっと教員、親、多くの所で話し合う機会をもうけて、また時間もかけてほしい。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の検討については、釧路市教育委員会においては5年前より行っており、また外部委員による検討委員会においても1年以上の協議を続けてきております。</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。</p> <p>また、教員への周知や意見聴取については学校長を通じて実施しております。</p> <p>今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信に努めてまいります。</p>
11	<p>小中一貫義務教育学校の設置は、なんら子供たち、そして教職員も不安でメリットが一つもなく、この動きには納得できない。今以上に子供たちは学力向上を強いられ、学力競争にさらされ続け疲れ果て、不登校に拍車をかけられる。教職員の今でも超多忙であるにもかかわらず、ますます多忙になることは明らかである。もっと地域・保護者・教職員の意見をしっかり聞き、意見に基づく素案の作成をすべきである。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退などの釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応、学習指導や生活指導に関し、子供のそれまでの状況を把握しながら適切な指導に当たっていかうとするものです。</p> <p>また、施設一体型の義務教育学校においては、授業を担当する教員数が増えることにより業務の効率化が可能となるものと考えております。教員の働き方改革については、この計画の策定に関わらず現在も取り組んでいるところであり、今後におきましても取り組みを進めてまいります。</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信に努めてまいります。</p>
12	<p>基本計画（素案）については、賛成できない。反対である。</p> <p>義務教育学校を2031年度までに6校開校することについては、議論が進んでおらず、もっと時間をかけた議論が必要であると考えます。</p> <p>「中1ギャップ」や「不登校の問題」が本当に解決するのか。阿寒中+阿寒小、音別中+音別小の小規模校に限定した義務教育学校のみを進めて、東部の地域の義務教育学校はやめた方がよいのではないか。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の検討については、釧路市教育委員会においては5年前より行っており、また外部委員による検討委員会においても1年以上の協議を続けてきております。義務教育学校については、学校ごとの状況を鑑みて、今後10年の計画期間内において、6校を義務教育学校へ移行することとしております。</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退などを釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たっていかうとするものです。</p> <p>問題の解決や緩和に向けて、しっかりと取り組んでまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
13	<p>地域に花を咲かせることで、子供たちに何かつたえられるのではと花いっぱい運動に携わってきている。東雲小が義務教育学校の対象に挙げられているが、統廃合により地域から学校がなくなるということは、その地域他職種にも大きく影響及ぼす問題である。地域に花を咲かせる事で、子供達に何か伝えられるのではと、ずっと花いっぱい運動にも携わっており、地域住民の子供達に対するこの思いを無にしない施策を心より願うばかりである。</p> <p>児童数減少による削減処置が根本にあるのではなく、本来の子供への教育のあり方を考え、よい方向へ押し進めてほしい。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>いつも学校運営にご協力をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>施設一体型の義務教育学校の設置は、学校の統廃合を目的とした取組ではなく、小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たっていかうとするものです。</p> <p>今後におきましても、子どもたちにとって「最適な教育環境」を最優先に考え、各種施策に取り組んでまいります。</p>
14	<p>釧路市が進めようとする小中一貫義務教育学校に反対。児童生徒にとって、自己肯定感を育てるにはわかる授業、楽しい学校づくりではないか。より一層の管理教育が進められ、不登校・いじめ問題が今より深刻化するのではないかと危惧している。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>釧路市教育委員会では、学習指導要領に記載され、推進が求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学校教員と連携しながら授業改善に取り組んでおります。わかる授業、楽しい学校づくりについては、今後ともしっかりと取り組んでまいります。</p>
15	<p>武佐団地近くには若草保育園、武佐小学校と少子化の割には良い形にはなっている。小中一貫教育による大きなひとかたまりでは、手や目のとどかない事が多くあるのではないかと。小学校には小学校生活の良いところが有り、6年間を過ごして「さあ！中学生」と心を新たに希望で胸を輝かせて中学校に行くのではないかと。</p> <p>私たちの団地の中に武佐小学校は必要な風景である。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>施設一体型の義務教育学校においては、従来の小中学校を合わせた数多くの教員が関わることで、9年間を通した子供たちの見守りを実践しようと考えております。</p> <p>また、義務教育学校のデメリットとして小学校6年生としてのリーダーシップを発揮する機会が失われると指摘される場所がありますが、現実的にはその逆も見られ、義務教育学校の4、7、9年生という区切りを設定した場合には、それらの学年が最上級生としてリーダー役を果たしているほか、これまで学校が別であった9年生が新入生である1年生の面倒を見るという社会性の育成にも効果が確認されており、子どもたちに良い影響を与えられるものと考えております。</p>
16	<p>従前の小中併置校と義務教育学校との違いがよくわからない。音別・阿寒・大楽毛・美原等は、一小と一中が一緒になるだけなので、1クラスの人数は増えないため、少人数のデメリットは解消されない。</p> <p>不登校の主な要因は、思春期と学校の管理体制のもと、一律に同じことを強制されることに気持ちをおわせていけないことに対しての心や身体の拒否反応なので、各々の子に対して総合的に対応する必要があり、中一ギャップと同列に論じられない。学力や学習意欲を伸ばすこと、学校に足が向かない児童生徒のことを考えるならば、むしろ少人数であることの方が望ましい。義務教育学校を進めようとしている現在の状況からは、教育予算の効率化しか見えてこない。先行する事例をじっくり検証して後に考えるべきと考える。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退などを釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たっていかうとするものです。</p> <p>施設一体型の義務教育学校の設置についても、学校の統廃合による予算の効率化を目的とした取組ではありません。</p> <p>不登校の要因は、様々なものがありますが、本人への聞き取り結果では、学習についていけないことによるものや生活の乱れに伴うものも少なくない状況であることから、9年間の見守りの中で子どもたちのケアに努めてまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
17	市民の合意形成を十分図るべきであり拙速である。「中1ギャップの解消」「学力向上」は、義務教育学校で押し通すのではなく、根底に個に応じた丁寧な指導が欠かせないため、「少人数学級の実現」「先生方の多忙の解消」等、行き届いた教育がどうしても必要ではないか。現在より学校規模が大きくなってしまふような学校は、小中一貫・義務教育学校にしないでほしい。	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信や関係者の理解の促進に努めてまいります。</p> <p>少人数学級の制度化については、釧路市教育委員会としてこれまでも要望しており、今後も続けてまいります。</p> <p>義務教育学校については、学校ごとの状況を鑑みて、今後10年の計画期間内において、6校を義務教育学校へ移行することとしております。また、他都市では1,000人規模のものや、帯広市でも450人規模のものが設置され、それぞれ特色を生かした学校運営が行われております。</p>
18	児童生徒の減少による、統廃合は合理的で賛成である。一方、母校名称がなくなることに寂しさを感じる。桜が丘中学校は、令和11年度で開校50周年半世紀を迎えるので、50周年を盛大に祝福してから閉校としてほしい。	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>施設一体型の義務教育学校の設置は、学校の統廃合による予算の効率化を目的とした取組ではなく、小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たってまいります。</p> <p>今後におきましても、子どもたちにとって「最適な教育環境」を最優先に考え、各種施策に取り組んでまいります。</p> <p>学校の周年行事について、ご意見として伺います。</p>
19	9年制の学校に変更することだが、日本の学校教育が長年培った6・3年制には深い意味があるのではないかと。説得できる教育学的検証もない中で進めることは賛成できない。現時点で義務教育学校を進めることは反対である。	1	<p>【その他】</p> <p>義務教育学校は、学校教育法に定められた学校の一つで、学校教育制度の多様化や弾力化を推進するため、小中一貫教育を実施することを目的として創設されたものであり、教育的な意味を持って制度化されたものです。</p>
20	学校基本計画素案に反対。	1	<p>【その他】</p> <p>ご意見として伺います。</p>
21	施設一体型の義務教育学校の設置には反対。	1	<p>【その他】</p> <p>ご意見として伺います。</p>
22	学校基本計画素案に反対。	1	<p>【その他】</p> <p>ご意見として伺います。</p>
23	小中一貫教育には反対する。少ない生徒に一人の教師でゆきとどいた教育を行うことがおきざりにされる子供を作らない唯一の方法だと考える。一番懸念しているのはいじめである。もし小学生の時にいじめがあっても、今までは中学校で人間関係がリセットできるなど逃げ場があるが、一貫校となると逃げ場がなく地獄である。貧困格差が問題となっている釧路市は少人数学級が一番良いと考える。	1	<p>【その他】</p> <p>いじめは決して許されない行為であるとともに、どの学校でも起こりうるものであるものと認識し、いじめの未然防止と迅速な対応に取り組んでまいりました。いじめの解消に向けては、校種の区分を問わず、指導体制や教育相談体制の充実に努めてまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
24	<p>「小中一貫・義務教育学校の設置」に反対する。教育に予算を増やし、子どもひとりひとりに個別で対応できる教員を増やし、環境を整えることで教育の課題は解決されると考える。教育現場の声をもっと聴いてほしい。</p>	1	<p>【その他】 施設一体型の義務教育学校への移行となることで、授業を担当する教員や子供に関わる教員が増えることになります。教員への周知や意見聴取については、学校長を通じて実施しております。</p>
25	<p>小中一貫・義務教育学校の計画に反対。ランドセルに補助教材、部活のバックを背負って登校している実態は検証しているのか。中1ギャップの解消を挙げているが、現場の義務教育学校では逆に中等部（5～7年生）で5年生と7年生の体力・能力の差が大きく「5年生ギャップ」が問題との報告。15名程の小規模校でも十分集団が作られ、きめ細かな指導ができるチャンスであると教師からの発表もある。</p> <p>子どもの為に始まった制度ではなく、行政の財政的メリットだけで行われようとしている今回の改革は中止してほしい。</p>	1	<p>【その他】 通学時のランドセルの重さについては、教育委員会や各学校も十分に把握しているところであり、学校の保管場所や時間割の工夫などに努めております。</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退をなど釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通じた組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たってまいります。</p> <p>義務教育学校の設置については、学校の統廃合による予算の効率化を目的とした取組ではありません。</p>
26	<p>学校教育を実際に進める児童生徒・保護者・教職員・その学校を支える地域社会の方々に懇切丁寧な説明や理解を得る努力が、極めて不十分と言わざるを得ない。北海道で導入した自治体でも、小中学生総数で、99人以下の規模で実施しているにすぎない。先行事例での実践成果の検証などを十分に行ってからでも遅くない。拙速に釧路市内で大がかりに制度変更を行うことの積極的な意義を見出しにくい。学力や中一ギャップへの効果を上げるかどうかは、日々、実践に当たられている現場の教職員の方々の意欲と実践にかかっている。教育行政はそのような現場の声に耳を傾け、現場の実践に寄り添い、励ます具体的な施策をきめ細やかに行うことが必要ではないか。今回の提案は、現場の声が活かされているとは、伝わってこない。何よりも、現場の教職員が義務教育学校制度に確信を持って実践に励まれるような制度設計と提案にしてください。そのことを訴えて意思表示とする。</p>	1	<p>【その他】 本計画の検討については、釧路市教育委員会においては5年前より行っており、また外部委員による検討委員会においても1年以上の協議を続けてきております。</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。</p> <p>また、教員への周知や意見聴取については学校長を通じて実施しております。</p> <p>今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信や関係者の理解の促進に努めてまいります。</p> <p>義務教育学校については、他都市では1,000人規模のものや、帯広市でも450人規模のものが設置され、それぞれ特色を生かした学校運営が行われております。</p> <p>開設準備にあたっては、学校・保護者・地域など学校運営に関係する主体が参画した開設準備協議会においてご意見を伺いながら、しっかりと準備を進めてまいります。</p>
27	<p>地域で通えるところに小学校をおいてほしい。小さな規模でこまやかな指導を望む。保護者や教師の願いを聞いてほしい。</p>	1	<p>【その他】 本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>通学に関しても、学校・保護者・地域など学校運営に関係する主体が参画した開設準備協議会においてご意見を伺いながら、しっかりと準備を進めてまいります。</p>
28	<p>義務教育学校は今すぐは必要ない。説明会で協調された中一ギャップを心配されるなら、中学生にももっと手厚い人員配置をすべき。学校は、地域にとって大事なものであり、減らしてしまうより、施設も子供達も大事にする教育を望む。</p>	1	<p>【その他】 施設一体型の義務教育学校への移行となることで、授業を担当する教員や子供に関わる教員が増えることになります。</p> <p>今後とも、子供たちにとって最適な教育環境はどのようなものかという視点を第一に進めてまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
29	<p>小学校統廃合計画には反対である。</p> <p>低学年の子供達が重いカバンを背負っての通学が可哀そうである。また、家族送迎にしても今でも通学時、車道に送迎者の列であり、これ以上増えたらスクールゾーンの道路が通勤者にとっても朝の時間大変になる。もっと住民と話しあいの場を。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>通学時のランドセルの重さについては、教育委員会や各学校も十分に把握しているところであり、学校の保管場所や時間割の工夫などに努めております。</p> <p>保護者の送迎時の道路事情については、各家庭に協力を求めてまいります。</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信や関係者の理解の促進に努めてまいります。</p>
30	<p>市民や父母によく周知され理解されない中で、「国家100年の計」といわれる教育制度を一辺の文書通知で決めて、これでオシマイという市教委、市のやり方には賛成できない。今の制度と「一貫校」の違いなど時間をかけて検討すること。特に他の県、市町村の具体的な実践や取り組み、メリットとデメリットなど「ていねいな説明」とかみ合った検討が大事だと考える。少人数学級などの良さも指摘したい。地域の教育力、生活力を高める地域の文化センター的役割を強調したい。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信や関係者の理解の促進に努めてまいります。</p> <p>現在の学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学びを実践するためには、ある程度の児童・生徒数が必要であると考えております。</p> <p>少人数教育のメリットも十分に承知しており、釧路市教育委員会としましては、少人数学級の制度化について、国・道について引き続き要望してまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
31	<p>釧路市が進める義務教育学校に反対する。</p> <p>要因として、コロナ下における相次ぐ休校、生活リズムの乱れ、行動制限、交友関係の希薄等登校意欲の低下もあるが最大の要因は、競争的教育である。全国学力テストなど学校も教師も子供もプレッシャーになっている。市教委は「不登校や学力低迷の課題は待ってこない」と述べているが、義務教育学校が出来れば一挙に解決すると思うのか。現在の学校関係者は、全力で教育に当たっている。義務教育学校は、広範囲となるため父母会との連携は益々組織しづらくなる。また、学級数も多くなり、学級崩壊なども考えられる。「5年前から再編の内部検討を進めていた」と言うが市民に知らされていない。知ったのは9月の説明である。どう考えても市民は行政の考えていることについていけない拙速です。「教育は100年の計にあり」と言われるように、だれが考えても「いい案だね」と言われるように慎重には慎重を期してことを進めてほしい。父母・市民の協力無くして教育は成り立たない。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退をなど釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たっていこうとするものです。</p> <p>学級数が増えることと、学級崩壊には相関関係がないものと考えております。</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信や関係者の理解の促進に努めてまいります。</p>
32	<p>義務教育学校に反対。学力・学習意欲の向上、中一ギャップの緩和、不登校が解消されるという検証が何一つされておらず、根拠を示すべきである。現場教員とのさらなる議論が必要不可欠である。現時点で小中連携を行っている青陵校区で、上手くいっているのなら、義務教育学校にするのではなく、他の中学校区でも行い、しばらく続けていけば良いのではないか。市民（特にこれから小中学校に入る子を持つ親）への周知がまだまだ不十分でさらなる議論が必要であり、12月議会で結論を出すのは早計すぎる。“誰一人取りこぼさない教育を”というのであれば、教員を増やし、ひとりひとりにゆきとどいた教育が出来る「少人数学級」の実現を優先させて欲しい。</p>	1	<p>【参考】</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退をなど釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たっていこうとするものです。</p> <p>小中連携・小中一貫教育を進め、不登校や問題行動の要因となっている学習や生活上の問題の早期対応などに取り組んでまいります。</p> <p>現在、釧路市教育委員会では、小中連携教育を推進すべく、小中ジョイントプロジェクトを本年より実施しております。小中連携教育の取組を小中一貫教育として更に進めるために、施設一体型の義務教育学校の設置を方針として掲げております。</p> <p>本計画の内容については、地域懇談会や教育懇談会など市内20か所以上で開催した市民向けの説明会のほか、釧路市PTA連合会や義務教育学校対象校のコミュニティスクールなど、様々な機会を設けて説明を行っております。今後とも、計画についての説明会を様々な機会を活用して実施し、積極的な情報発信や関係者の理解の促進に努めてまいります。</p> <p>現在の学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学びを実践するためには、多様性を理解する観点からも、ある程度の児童・生徒数が必要であると考えております。</p> <p>少人数教育のメリットも十分に承知しており、釧路市教育委員会としましては、少人数学級の制度化について、国・道に引き続き要望してまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
33	<p>釧路市がめざす学校のすがた基本計画（素案）について、反対である。釧路市の子どもたちについての現状認識に根拠がない。「中1ギャップ」については法改正審議の中でも触れられたことはなく、国立教育政策研究所も「中1ギャップに科学的根拠なし」と述べており、増加する不登校、学力や学習意欲の伸び悩みの原因を「中1ギャップ」という科学的根拠のない言葉に求めた理由は何か。また、現場の多忙化を無視している。乗り入れ授業は教員の負担が大きすぎるのでやめるべき」といった研究者の意見もあるが、市教委は「最も分かりやすい効果として期待している」と強調した。研究者との認識のずれがひどすぎると思う。</p> <p>素案では、小学校同士の統廃合が撤回されているが、理由を再編にあたり2回の統廃合を経験する可能性もあり、それは『負荷』となるためとしている。施設一体型の義務教育学校は小学校、中学校を1校にまとめる事実上の統廃合であるため、通学距離、通学方法も含め、子供や保護者には大きな生活の変化を強いる「負荷」「負担」となるため、本計画は立ち止まるべきである。</p> <p>市の計画によれば、東部地域や美原地域では4～500人規模の義務教育学校となるため、既存の学校施設を全児童生徒が不自由なく使えるためには大掛かりな工事を行う必要がある。また、義務教育学校における教員配置の変更として「校長職1名分を一般教諭へ」「養護教員の転換配置（2名配置を1名とし一般教諭を配置可能）」としているが、これが子供に最適な教育環境と言えるのか。市のめざす方向は、科学的な根拠と市民への理解促進のための期間が圧倒的に不足している。現状の分析、検証を重ね、明確な根拠や具体的な実践例（阿寒湖義務教育学校など）を出せるようになってから市民に提示すべきであり、今の市の早急な進め方には懸念を覚える。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>「中1ギャップ」とは、中学入学後の生徒に多く見られる不登校やいじめ、問題行動等の総称であり、教育現場には現実には起こっている事象です。教育現場では現在発生している事象に現実的な対応を必要としていることから、不登校等の要因として当事者が挙げている学習の躓きや生活上の問題を早期に把握し、対応するために本計画を策定し、小中連携や施設一体型の義務教育学校の設置を施策として位置づけたものです。</p> <p>乗り入れ授業については、小中ジョイントプロジェクトとして本年より実施している取組です。施設一体型の義務教育学校となることで、授業を担当する教員数が増えることにより業務の効率化が可能となると考えており、乗り入れ授業についてもこれらの取組の中で実施を調整してまいります。</p> <p>また、教員の働き方改革については、この計画の策定に関わらず現在も取り組んでいるところであり、今後におきましても取り組みを進めてまいります。</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退をなど釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通じた組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たっていかうとするものです。</p> <p>施設一体型の義務教育学校の設置についても、学校の統廃合による予算の効率化を目的とした取組ではありません。通学先が現在よりも遠くなる場合については、少なくとも従来の学校からスクールバスを運行するなど、子どもたちに負担のかからないよう、開設準備協議会において検討してまいります。</p> <p>義務教育学校の施設整備については、教育委員会において設置時の学級数や特別教室数などを想定し、1年生から9年生までの利用に必要な工事を行うこととしております。学校施設に関する具体の協議は、開設準備協議会の中で行う予定としております。</p> <p>また、義務教育学校における教員の配置変更として、校長職が1名となり授業を担当する教員が増えることは、教育現場の働き方改革にも繋がるものと考えております。養護教員の配置転換については、学校現場との協議次第で可能となるものですが、児童生徒数が少ない小規模校において、配置されている教員の実態に合わせて、現場が必要とする教員に転換していける可能性を例示したもので、現場の意向を踏まえて、子どもたちに最適な教育環境を作っていこうとするものです。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
34	<p>枠組みを構成し、その後に内容を展開するという論理では、内容は後から附いてきて、その内容検討がおろそかになる可能性がある。一般的な意味で拙速にならずにゆっくりとするだけでなく、相互に深めて具体的な検討を、これを機会に内容的に深めてほしい。</p> <p>義務教育学校の設置を推進においては、カリキュラム的な構造検討が見えにくく分かりにくい。全体の枠組みだけでなく、義務教育9年間のカリキュラム構造分析の内容的な展開が必要と考える。各地域等の特性に依拠するだけでなく、教科の特性の構造の分析も必要であり、その実態に即して検討してもらいたい。</p> <p>中1ギャップとしてのタイトルだけでなく、様々な課題がそこには組み込まれていて腑分けが必要と考える。学力や人間関係など多岐にわたっており、中1年に組み込むのを課題とするのではなく、腑分けをして検討する必要がある。</p> <p>外国からすると日本の授業における人数は多い。少なくとも少人数配置が一般的でその方向を目指したい。機械的に単式・複式に区分するのではなく、課題によっては複学年指導もありうる。ただしこの場合には異なるを練り合わせるためには、指導能力が問われることになる。これらも授業展開においても検討が必要で、地域との話し合いのみならず、そのような単に単一・複式とするのではなく課題によっては、構成して組み合わせるということもあり得て、学びを深める機会として検討してもらいたい。</p> <p>道東の小さな学校を訪問する機会があったが、地域ではカルチャーセンターとしての役割を果たしている学校が多くあった。学童保育や地域とのかかわりもあり、歴史を踏まえての広がりもあり、納得を生み話し合いの中で模索していく必要があるだろう。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>義務教育学校は法令に規定された学校種の一つであり、その成果については国や都道府県などから多くの事例が公表されております。釧路市教育委員会では、それらの事例を基に5年前から検討を行うとともに、教育関係者で構成する「あり方検討委員会」に諮問し、市が現在抱えている教育課題への対応として効果的なものと判断し、1年以上の協議を続けた上で、本計画の策定に至ったものであります。</p> <p>義務教育学校における基本的な教育課程は、従来同様であり、カリキュラムも大きな変化はありません。ただし、特色的なカリキュラムとして、地域学を設定することができますので、阿寒湖義務教育学校においては各学年共通の取組として「阿寒学」を設定したものとしております。</p> <p>「中1ギャップ」とは、中学入学後の生徒に多く見られる不登校やいじめ、問題行動等の総称であり、教育現場には現実に起こっている事象です。教育現場では現在発生している事象に現実的な対応を必要としていることから、不登校等の要因として当事者が挙げている学習の躓きや生活上の問題を早期に把握し、対応するために本計画を策定し、小中連携や施設一体型の義務教育学校の設置を施策として位置づけたものであります。</p> <p>1学級の人数については、国が制度として定めたものであります。少人数教育のメリットも十分に承知しており、釧路市教育委員会としましては、少人数学級の制度化について、国・道について引き続き要望してまいります。</p> <p>また、釧路市教育委員会としては、複式教育を否定する立場ではありません。複式教育を実践するために教員の先人たちが苦勞して知見を積み上げてこられたことに対して敬意を表します。一方で、釧路市教育委員会としては、複式教育について望んで実施するものではないという判断に立っており、避けられる場合においては、単式で授業を受けられることが、子どもたちにとって望ましいものと考えております。</p> <p>本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>今後におきましても、子どもたちにとって「最適な教育環境」を最優先に考え、各種施策に取り組んでまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
35	<p>当町内会において先日役員及び教育問題に詳しい知識を持つ会員、一部興津小学校にお孫さんが在校する保護者会員などによる打ち合わせ会を開催し、義務教育学校（中学校区を基盤とした小中連携の推進）素案には、基本的に賛成ということで意見の一致をみた。しかしいくつかの問題点について報告する。</p> <p>当町内会及び東側の興津小への通学路はそのままであり、興津小へ通学させている父兄会員から、小中一貫教育はよいと思うが、興津小廃校後も従来通り興津小まで集合するのであれば道路（歩道などの）整備が必要ではないかとの要望があった。</p> <p>さらに計画案の中にもそうした整備計画はあっても2年間の期間で達成することが可能かどうかの不安意見が出ていた。</p> <p>小規模校のメリット・デメリットなどについてはよく理解できる。要望事項として、GIGAスクールに対応できるなど、時代が求める優れた教員を採用するなど、教員の質的向上を進めて欲しい。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>義務教育学校設置後の通学路については、開設年次から3年前に設置する予定の開設準備協議会において、スクールバスを含めた具体の協議を行うこととしております。基本的には、これまでの通学路を踏襲するものと考えておりますが、関連する地域の要望についても伺います。</p> <p>G I G AスクールにおけるI C T機器への対応については、現在も集合研修や校内研修などを開催しておりますが、今後におきましても、授業の中で幅広く活用が可能となるよう、教員の知識や技術の向上に取り組んでおります。</p>
36	<p>教育現場で子供たちや父母・保護者さん方、教師の方々のいろいろな大変さや苦労がある中、それらが近隣小学校の統廃合や9年間の義務教育学校（市の案）構想で、その一端でも解消できるとはとても考えられない。先生方も、一人一人の子供たちをきめ細やかに見、つまづきや、その手立てを考えらえるような少人数教育を求める。先生方の過重労働が減り、最近の科学の成果の学習や教材研究の時間が保証されるような、現場の声を聞き、生かす学校を。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退をなど釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通じた組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たっていかうとするものです。</p> <p>1学級の人数については、国が制度として定めたものであります。少人数教育のメリットも十分に承知しており、釧路市教育委員会としましては、少人数学級の制度化について、国・道について引き続き要望してまいります。</p> <p>また、教員の働き方改革については、この計画の策定に関わらず現在も取り組んでいるところであり、今後におきましても取り組みを進めてまいります。</p>
37	<p>「釧路市がめざす学校のすがた基本計画(素案)」は、残念ながら希望ある未来を感じることができない。釧路に住む子供たちが楽しく学び、ここで生まれ育ってよかったという学校ではない。</p> <p>もう一度子供たちの声、学校が抱える問題を問い直し、各学校で実践されている良い所、継続すべきところもあるはずで、釧路らしさがめざす姿にあふれた内容にしてほしい。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の策定にあたっては、それぞれの子どもたちが今後の人生を生き抜いていくために必要な「生きる力」を育むために「最適な教育環境」とはどのようなものかという視点を第一に、検討を重ねてまいりました。</p> <p>学校運営に際し目指す姿については、各学校が、児童生徒の実態に応じた運営計画を設定し、保護者や地域の代表としてコミュニティースクールに説明し承認をいただいているところであり、今後とも、子どもたちが楽しく学ぶことができ、そこで過ごせて良かったと思える学校運営に努めてまいります。</p>

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
38	<p>小中一貫教育に関しては施設一体型義務教育学校ありきで進められており、実現したい小中一貫の具体的なイメージが無いに等しく、施設一体型義務教育学校化は反対。清明校区のコミュニティスクールの活動内容が保護者に伝えられず、どのような人が参加できるのか不明。自分には声がかかっておらず、地域住民である自分の親にも声はかかっていない。メンバーの選出方法等に疑問があり、そのコミュニティスクールが開校準備協議会の構成員になるというのは反対。「保護者」の任意の加入団体であるPTAという組織にひと括りにせず、保護者それぞれの意見も反映できるような体制づくりが必要。</p> <p>クラスの中でも学力の差が大きいと感じる。個別指導を積極的に導入し、放課後や長期休暇などを利用し、授業を理解できる基礎学力を身につける必要があると思う。また、家庭学習に対して積極的に親と関わりを持たせ、学校と親と一緒に子どもをサポートする体制を構築すべきである。学校ルールの公開や策定の協議プロセスの公開、目的の明確化を求める。小学校と中学校では授業時間が異なるため、施設一体型の学校となった場合に、どのようにチャイムを鳴らすのか。また、遊具や学習林（園）は、どのように考えているのか内容が記載されていない。部活動のあり方について、清明小学校の野球・バスケットの少年団は、1週間に6日活動しており、平日は夕方7時まで、土日も練習・試合等を行い、振替休日日を設けていない。この状態は家庭学習をする時間的環境にはなく、小中連携・小中一貫教育で学力向上の効果を期待する前に、学校施設の利用停止等厳しい対応を含め、部活動のあり方を徹底し守らせることが必要。部活動ばかりで家庭学習をしない生徒により授業が進まなくなる要因になるのは迷惑。釧路と類似した状況において義務教育学校にした事例を挙げていないのは致命的欠陥。羅列する期待する効果には現実性がない。必要な協議されず、拙速に進められた結果、根拠のない対策や効果が挙げられていると考えることから、1から協議をやり直すべき。乗り入れ事業は期待できない。今までの教育体制の良い所を維持しつつ、地道な学習支援をしていく必要がある。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本計画の検討については、釧路市教育委員会においては5年前より行っており、また外部委員による検討委員会においても1年以上の協議を続けてきております。本計画は、不登校や学力の低下・意欲減退をなど釧路市が抱える教育課題の解決や緩和に向けて、小中連携・小中一貫教育を進め、9年間を通した組織的・継続的な見守りの体制を整え、教科ごとの系統的な学習指導や、問題行動の未然防止や早期発見・早期対応などの生活指導について、子供の過去の状況を把握した上で、未来を見据えながら、適切な指導に当たってまいります。</p> <p>開校準備協議会の構成員については、学校運営に携わっている方々を基本として、各学校と調整してまいります。</p> <p>施設整備・教育課程についても、それぞれの学校において、しっかりと協議を進めてまいります。今後におきましても、子どもたちにとって「最適な教育環境」を最優先に考え、各種施策に取り組んでまいります。</p>